
日露医学生交流報告書
(平成 22 年度日露夏期交流)

腎移植 Q & A

Iliia KISELEV · Elena PROTOPOPOVA

ロシア・クラスノヤルスク医科大学 6 年, 4 年

Ksenia SHERMATOVA

ロシア・ウラジオストク医科大学

齋藤 和英・高橋 公太

新潟大学大学院医歯学総合研究科腎泌尿器病態学分野

岩尾 泰久・樋口 渉・Ivan Reva · Olga Razvina

高野 智洋・西山 晃史・山本 達男

新潟大学大学院医歯学総合研究科細菌学分野

Kidney transplantation Q & A

Iliia KISELEV and Elena PROTOPOPOVA

Russia · Krasnoyarsk State Medical University (the sixth - and fourth - year students)

Ksenia SHERMATOVA

Russia · Vladivostok State Medical University (the fifth - year student)

Kazuhide SAITO and Kota TAKAHASHI

Division of Urology,

Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

Reprint requests to: Tatsuo YAMAMOTO
Division of Bacteriology Department of Infectious
Disease Control and International Medicine
Niigata University Graduate School of Medical
and Dental Sciences
1 - 757 Asahimachi - dori Chuo - ku,
Niigata 951 - 8510 Japan

別刷請求先: 〒951 - 8510 新潟市中央区旭町通 1 - 757
新潟大学大学院医歯学総合研究科国際感染医学講座
細菌学分野 山本 達男

Yasuhisa IWAO, Wataru HIGUCHI, Ivan REVA, Olga RAZVINA,
Tomomi TAKANO, Akihito NISHIYAMA and Tatsuo YAMAMOTO

Division of Bacteriology,

Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences

はじめに

1993年に始まった日露夏期医学生交流は今年(2010年)で18年目になります。新潟大学医学部にとっては今年特別な年で、創立100周年に当たります。日露交流関係では100周年記念事業として、「日露交流」と「ロシア、特に極東ロシアとシベリアの感染症とネットワーク」を2大テーマとした日露国際ワークショップ2010(6月1日, 2日)を有壬記念館で開催しました。ワークショップでは本年度の日露 Young Doctor Program も同時に開催し、ロシアから13名の young doctor を招聘しました。夏期医学生交流はそれに続く日露交流計画です。今年ロシアの2医科大学から3名の医学生が参加しました。期間中に6つの教室、病院に協力頂き、ロシア学生が研修を受けました。本稿は、泌尿器科学教室にお世話頂きました腎移植手術見学(図1)と講義に

基づいて、学生がQ & A形式で研修活動をまとめたものです。

Q & A

- Q** 腎移植が適応されないのは、どのような場合ですか。
- A** 腎移植が適応されないのは、以下の患者からの移植です：
- ・悪性新生物
 - ・感染症の病巣部のある腎臓
 - ・慢性尿路感染症
 - ・活動性B型肝炎および活動性C型肝炎
- Q** 毎年、日本で何例の腎移植が実施されていますか。また、新潟大学では何例実施しましたか。
- A** 日本では毎年、約1,200例の腎移植が実施されています。新潟大学では毎年、約20～30

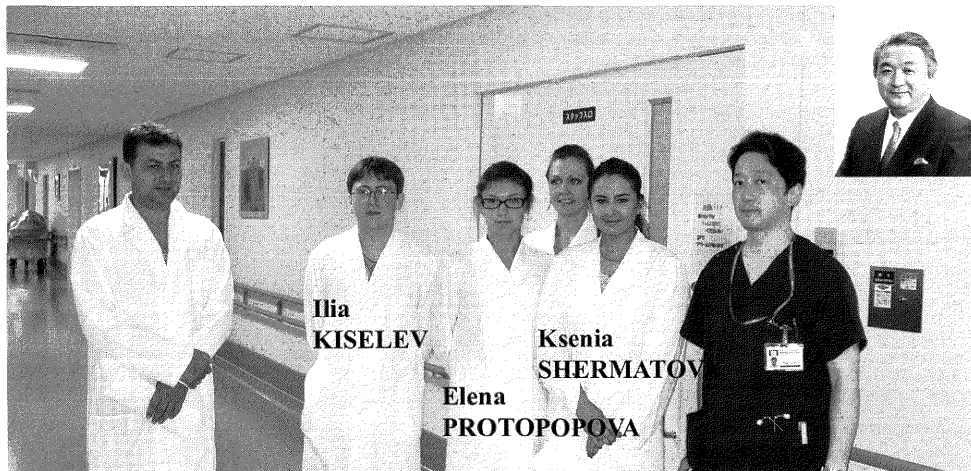
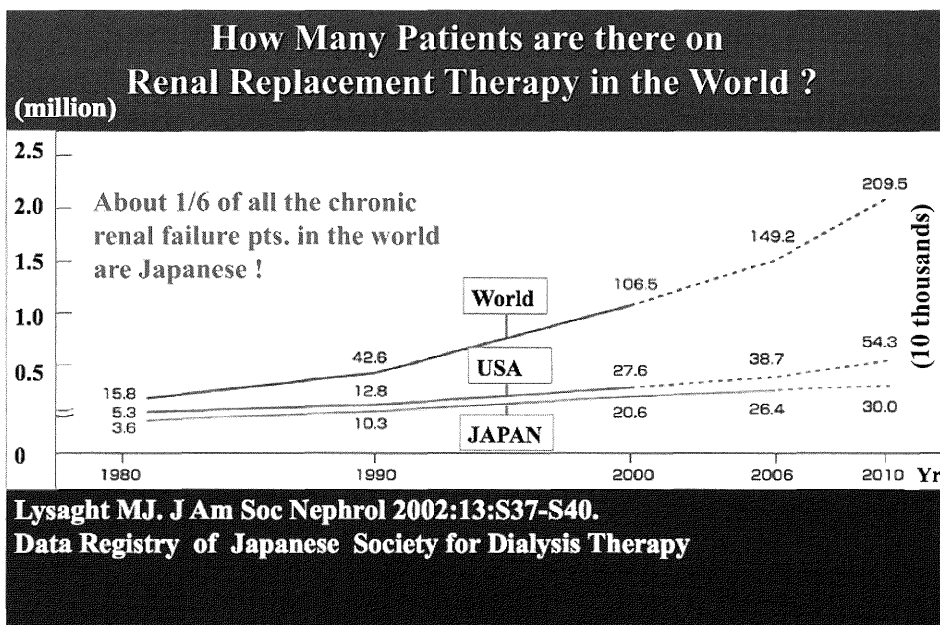


図1 泌尿器科学教室が担当した腎移植手術での研修風景



斎藤和英・原図(教育用)

図2 世界での血液透析患者数

例の生体腎移植 (LKT) と 5 ~ 10 例の献腎移植 (deceased donor kidney transplantation, DKT) を実施しています。

Q 透析患者の平均年齢は何歳ですか。また、日本には十分な数の血液透析センターがありますか。

A 透析患者の平均年齢は約 60 歳です。慢性腎不全の原因の 40 ~ 50 % は 2 型糖尿病です。また、30 ~ 35 % が糸球体腎炎です。血液透析療法を受けている全ての患者が腎移植を必要としています。21 歳までの慢性腎不全は主に先天性のもので、アルポート症候群等が原因で起こります。患者数は約 1,000 人です。透析療法が必要な全患者数は約 29 万人 (220 人/人口 10 万人) です。日本では、希望すれば全ての患者が透析療法を受けることができます。

Q 腎移植の手術費用はいくらですか。誰が支払うのですか。

A 手術費用は生体腎移植術が約 70 万円、生体ドナー手術が約 50 万円、献腎移植術が約 100 万円ほどです。費用の 70 % は健康保険によって支払われ、残りの 30 % は通常の医療では患者負担ですが、慢性腎不全患者には更生医療が適用されるため、患者の負担額は毎月約 20,000 円です。

Q 慢性腎不全患者の腎移植の場合、おもに、どのような人がドナーになるのですか。また、移植希望者はどれくらいの期間、移植を待つことになるのですか。

A 腎移植の約 83 % が生体腎移植です。脳死後、心停止後の献腎移植の場合の移植待機期間は短縮されてきましたが、14、15 年に達します。米国では年間約 10,000 例の脳死献腎移植が実施されていますが、それでも移植待機期間

は約5年です。

- Q** 腎移植の拒絶反応の確率はどの程度ですか。また、腎移植での移植片生着率はどれくらいですか。
- A** 全て、臓器提供者と移植者の適合性に依存します。拒絶反応の発生率を低減するため、複雑な移植組織適合性検査を実施しています。もちろん、全てを予測することはできません。そのため、全ての患者に移植手術後に免疫抑制療法を実施します。現在の免疫抑制療法のもとでは、移植後1年以内に急性拒絶反応が起こる確率は約20%程度、移植腎臓の1年生着率は96～97%、5年生着率は90%、そして、17年生着率は50%です。
- Q** 日本の移植ツーリズムの現状についてはいかがでしょうか。海外の人が日本に渡航して移植手術を受けることができますか。
- A** 日本はイスタンブール宣言に署名しました。イスタンブール宣言では、移植ツーリズムを文明国にとって有害で容認しがたい行為であると宣言しています。移植ツーリズムは政府によって禁止されています。例外として幼児の心臓移植に関しては、個別に対処しています。

おわりに

日露国際ワークショップ2010(5月東京, 6月

新潟)の開催準備に時間が取られ、本年度の夏期医学生交流計画の準備が遅れてしまい、例年参加頂いた極東医科大学(ハバロフスク)学生の招聘が間に合わなくなってしまいました。ロシアを訪問したことがある医学科学生が活動を盛り上げてくれました。また、麻酔科学教室、泌尿器科学教室、免疫学・医動物学教室、生化学第一教室、細菌学教室、そして西新潟中央病院から強力なサポートを頂きました。ホストファミリーにも協力頂きました。今回の課題は学部学生にとっては専門的すぎる点が気になりましたが、ロシアからの3名の学生は“very diligent and active”(クラスノヤルスク医科大学・Alla Salmina教授)を実施してくれました。多くの先生方から“良い学生だ”と言われたロシア学生。また、日露交流の芽が3つ育ったように感じました。

謝辞

御支援頂きました日露医学医療交流財団、日露青年交流センター、新潟医学振興会、協和会に御礼を申し上げます。

文 献

- 1) <http://www.kuban.su/medicine/shtm/baza/razno/perpo.htm>
- 2) <http://www.transplantaciya.ru/articles/?id=16>
- 3) <http://donor.okb1.ru/node/8>
- 4) <http://medmir.info/article/99/Transplantatsiya>
(平成23年3月15日受付)